



SMMA
見験楽学
ツアー

鉄道の裏がわ探検ツアー

2017年6月24日(土) 9:30~15:30



SMMA見験楽学ツアー



【発行・連絡先】

仙台・宮城ミュージアムアライアンス事務局

〒980-0821 仙台市青葉区春日町2-1(せんだいメディアテーク内)

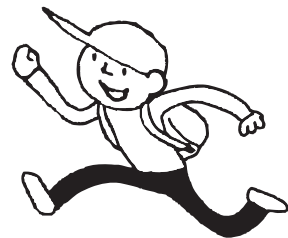
TEL 022-713-4483 / FAX 022-713-4482

E-mail office@smt.city.sendai.jp

Smma
SENDAI MIYAGI MUSEUM ALLIANCE
仙台・宮城ミュージアムアライアンス

持ち物リスト

- ◆歩きやすい靴・服装
- ◆飲みもの
- ◆雨具
- ◆筆記用具



注意事項

- ◆大きな声で話すなど、地域の方に迷惑となる行為は謹んでください。
- ◆ツアールートには、道幅の狭い歩道などもあります。車などには十分注意し、各自責任を持って行動してください。特に、歩きながらのスマートフォンは大変危険ですので控えてください。
- ◆当日の天候などにより、コース内容を変更したり、中止したりすることがあります。
ツアー参加中のけがや病気、事故などについては、SMMA事務局で加入している保険(レクリエーション傷害保険)の適用内とさせていただきます。



MEMO



見験楽学ツアー 07

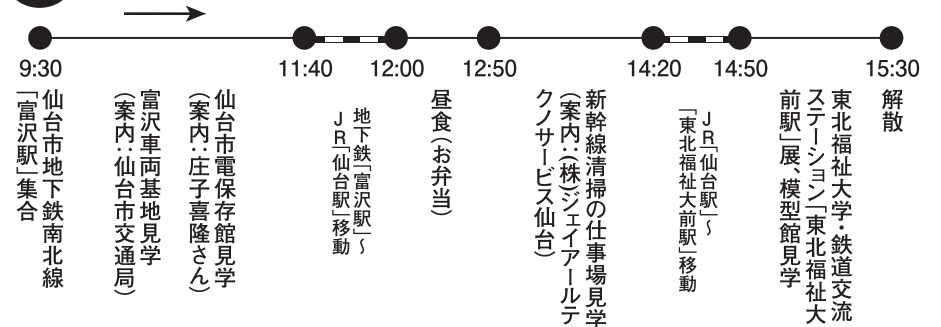
鉄道の裏がわ探検ツアー

いつもお世話になっている鉄道を陰で支える現場があります。例えば、運行を終えた地下鉄の列車が休んだり整備してもらうのは車両基地、折り返し運転する新幹線に気持ちよく乗ってもらうために、駅には短時間でお掃除するプロ集団が待ち構えています。ふだんは見たり入ったりできないそんな現場に潜入しつつ、廃線になった仙台市電の歴史を伝える保存館や、駅を作った大学が運営する鉄道資料館にも下車してみる鉄道三味のツアーです。

案内人 鈴木佳子 (東北福祉大学・鉄道交流ステーション 学芸員)

10年前に東北福祉大学に鉄道交流ステーションが開設された時から学芸員としてすべての企画展示を担当しています。しかし、実はその時が鉄道デビュー。それまでは博物館や美術館で働いてはいましたが、専門は美術、さらにやや逸れて大衆文化・芸能で「街頭紙芝居」などをテーマに調査研究・仕掛け人をしていました。学芸員を名乗るのはおこがましいのですが、鉄道会社・関連会社、鉄道OB、鉄道愛好家の皆さまに、鉄道のいろはを教わりながら日々修行中。ゑぐみと軽ろみのカオス世界から重くて硬い鉄道まで、守備範囲だけは広いです。宮城教育大学大学院卒・修士(教育学)

コース





東北福祉大学・鉄道交流ステーションこれからの企画

①企画展記念講演会

講演会「東北福祉大前駅開業 10 周年にあたって」

講師：橋本茂樹氏（ジェイアール東日本コンサルタンツ株式会社 東北支店 企画部長）

駅新設の要請を受けた当時の JR 担当者として「無理」と言われた技術的困難をどう解決し、開業までこぎ着けることができたのか、当時を振り返りつつお話いただきます。

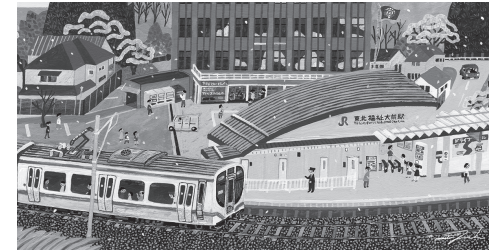
日時：2017 年 7 月 1 日（土）14:00～（開場は 30 分前）

会場：東北福祉大学
ステーションキャンパス 3F S301 教室

定員：100 名

入場料無料

※駐車場はありませんので、
公共の交通機関をご利用ください。



イラスト・小野寺純一

②次期企画展

東北福祉大学・鉄道交流ステーション第 31 回企画展

「鉄道のオノマトペ 言葉になった列車の音」

「ガタン・ゴトン」「シュッシュッ・ポッポ」…小さい時から誰かの言葉になって聞き慣れた鉄道の音があります。これら言葉になった音（オノマトペ）を鉄道の技術から説明してみると、そこには理にかなった鉄道のしぐみが…。

幼児からお年寄りまでみんなが知っている身近な音と言葉の世界から、鉄道への興味をかきたててください。

開催期間：2017 年 8 月 1 日（火）～11 月 4 日（土）

開館時間：10:00～16:00

休館日：毎週日・月曜日、および、祝日

※大学行事等により臨時閉館あり

入場無料

後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、河北新報社、
東北鉄道協会（予定）、（社）交通環境整備ネットワーク、
みちのく鉄道応援団

協力：東日本旅客鉄道(株) JR 東日本研究開発センター、
横浜市歴史博物館

鉄道の オノマトペ

言葉になった列車の音

お問い合わせ
鉄道交流ステーション TEL 022-728-6612

仙台・宮城ミュージアムアライアンス (SMMA)

仙台・宮城地域のさまざまな博物館が共通の知的資源として協働することで、地域にとってより有益な機能を獲得していくための共同事業体です。各館の学芸員や専門職員が持つ知識やノウハウを蓄積し、分野を横断した連携イベント、学校教育への協力や地域で活動する人材の育成支援、観光資源の開発など、単館では実現困難な新たな価値の創出を行い、地域のニーズに合った新時代のミュージアムとなることを目指して活動しています。

www.smma.jp

SMMA参加館

社会福祉法人共生福祉会 福島美術館



仙台の実業家・福島家3代が収集した作品約3000点を収蔵。伊達家旧蔵品、宮城県や福島家に縁のある作品を元に企画展を開催します。

仙台うみの杜水族館



豊かな日本の海や自然環境を体感できる大水槽、海の生きものたちによる東北最大級のパフォーマンスなど様々なコンテンツを有する水族館です。

せんだい3.11メモリアル交流館



東日本大震災の記憶と経験を媒介に、コミュニケーションを通じて知恵と教訓を紡ぎだし、未来へ、世界へとつないでいく拠点です。

スリーエム仙台市科学館



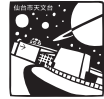
緑豊かな台原森林公園内に建ち、自然史系、理工系、生活系の3つの展示室のほか、岩石や植物の屋外展示もあります。

仙台市縄文の森広場



山田ノ台遺跡で発掘された縄文時代のムラを、植生環境とともに復元しています。土器づくりなどの体験活動を実施しています。

仙台市天文台



口径1.3mの「ひとみ望遠鏡」やプラネタリウム、天文展示室等を備えた総合天文博物館です。

地底の森ミュージアム(仙台市富沢遺跡保存館)



富沢遺跡から発見された2万年前の人間の生活跡と森林跡を保存し、公開しています。

仙台市博物館



伊達家寄贈文化財をはじめ、仙台に関する歴史・文化・美術工芸資料等を収蔵し、常設展では随時約1,000点を展示しています。

仙台市八木山動物公園



世界各地に生息する約500点の動物たちを飼育・展示している東北最大の動物園です。

仙台市歴史民俗資料館



県内最古の洋風木造建築である旧陸軍兵舎を利用し、明治時代以降の仙台の歴史と人々の暮らしを紹介しています。

仙台文学館



明治以降の郷土ゆかりの文学者、土井晩翠や島崎藤村をはじめ、井上ひさし初代館長や現在活躍中の作家を紹介しています。

せんだいメディアテーク



図書館、ギャラリー、スタジオ、映像音響ライブラリーなどの機能を備えた、市民の美術や映像文化の活動拠点です。

東北学院大学博物館



東北学院大学の歴史・文化に関する研究成果をもとに、様々な展示・企画を行う大学博物館。学芸員養成の場としての役割も担う。

東北大学総合学術博物館



大学の研究者たちが世界中から集めた珍しい化石や鉱物、土器や石器、骨格標本、有孔虫、サンゴなどを展示しています。

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館



人間国宝(型絵染)で日本を代表する染色工芸家芹沢銈介の作品と、氏が収集した世界の工芸品を紹介しています。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション



東北福祉大学が運営する駅前の鉄道資料館。鉄道をテーマにした企画展と模型館を中心に広く一般の方にも大学をご利用いただけます。

(2017年6月現在)



1 仙台市地下鉄南北線富沢車両基地

1987年7月15日に開通した仙台市地下鉄南北線は、東北ではじめて開通した公営の地下鉄で、泉区の泉中央駅から太白区の富沢駅まで17駅・約14.8kmを複線で結んでいます。富沢車両基地は、富沢駅から西へ760mに位置し、甲子園球場がすっぽり2つ入ってもまだ余りある約85,000㎡の広い敷地を有しており、地下鉄南北線の安全を総合的に支える役目を担っています。南北線には現在4両21編成(84車両)が在籍しているので、基地には何本ものレールが敷かれ、そこに列車が帰ってきたり、試運転をしています。また、総合事務所、車両工場、検車庫など、さまざまな施設があり、毎日の運行が安全で快適なものであるために、整備や点検及び検査等を行っています。

2 仙台市電保存館

1926年、木造四輪単車で、大町一丁目～仙台駅前～荒町間の全長3.3kmで営業をスタートした仙台市営電気軌道(通称=仙台市電)。その後、循環線を中心に、長町線・芭蕉の辻線・北仙台線・八幡線・原ノ町線と支線を延ばして、最盛期の1950年代後半には総営業キロ16kmに及び、車両も89両に増えて、1日平均約10万人の乗客を運びました。しかし、1960年代後半からのモータリゼーションの到来により、軌道に自動車が入り込んで渋滞がおきるようになり、市電のダイヤが乱れるようになったことから、利用者は年々減少するようになり、1969年に北仙台線が、さらに1976年は全線が廃止になり半世紀にわたる歴史に終止符が打られました。

仙台市電保存館は、そんな市民の足として親しまれ、愛されてきた仙台市電の姿を未来に伝えるために、1991年、富沢車両基地内に開館しました。現在は、創業当時の木造の1号車(モハI型)、主力電車として活躍した123号車(モハ100型)、最後の新造車で廃止まで活躍した415号車(モハ400型)が、関係資料とともに公開されています。



見どころ

JR仙台駅・新幹線清掃の現場 (株)ジェイアールテクノサービス仙台営業所

3

東京駅や仙台駅などで折り返しの新幹線を待っているとき、素晴らしい早業で車内を清掃している風景を見かけたことはありませんか。これは世界が注目する鉄道サービスの現場です。仙台駅で折り返す列車の場合、ゴミ集め、座席シート頭部の掛け布(リネン)交換から窓際や床などの車内清掃、トイレ・洗面台の清掃、そして後確認、これらをわずか13分で仕上げています。車内での清掃が進む間、ホーム下(軌道階)では、手洗い用の水の補給とデッキのゴミ箱のゴミを取り卸す作業が行われています。この2つは東京駅では行われていません。ゴミの取り出し方は、「はやて」で使われているE2系車両と「はやぶさ」などに使われているE5系車両では造りがちがうために作業も変わります。つぎつぎにやってくる新幹線は、車種も編成もまちまちなので、臨機応変な対応が求められるのです。

ほかにも駅構内の喫煙室やトイレなどが常に清潔に保たれることはもちろんですが、仙台駅のトイレ洗面台に季節に合わせてそっと置かれている折り紙なども清掃の方々がボランティアではじめたサービスです。快適な鉄道の旅は、こうした手際よく気配りのあるプロの仕事のおかげで支えられています。

なお、軌道階は「撮影厳禁」ですので、あらかじめご了承ください。

東北福祉大学・鉄道交流ステーション

4

2007年JR仙山線の「東北福祉大前駅」開業を機にオープンした鉄道資料館。「仙山線交流電化試験」をはじめ、東北の鉄道に関する資料を収集・保存し研究に寄与するとともに、地域の歴史文化を理解し大切にすることを育む場として開設され、今年で開館10周年を迎えました。年に3回の企画展のほか、講演会などの普及事業を学生だけでなく、地域の皆さんにむけて開催。鉄道を通して市民の交流の輪が広がり大学が地域とともに育っていくことを目指しています。

なお、運営面では「みちのく鉄道応援団」(宮城県や首都を中心に会員数70名が在籍する鉄道愛好者団体)がサポートにあたっています。

POINT

開催中の「東北福祉大前駅」展を鑑賞したら、JR仙山線「東北福祉大前駅」がどのような工夫が凝らされて設置に至ったのかが、よくわかります！

鉄道模型館(TFUスカイトレイン)

5

「趣味の王様」と呼ばれる鉄道模型を広く市民に楽しんでもらうために、故盛田正治理学博士(元松本歯科大学教授)から寄贈された鉄道模型コレクションを軸に2013年に開館した市民参加型の鉄道模型館。模型のサイズは最も標準的なHOゲージ(実物の1/80 ~ 1/87の大きさで、線路幅は16.5 mm)で、館所蔵のドイツの老舗おもちゃメーカー・メルクリン社の交流式欧州型列車と、鉄道模型愛好家のボランティアスタッフが持参するご自慢の直流式日本型列車が、同時に走行します。目前を走る列車を立体的に十分楽しむことができるように巧みに工夫された高低差のあるレイアウトは手作り、館の運営も館長を含め全員ボランティアで行われています。